

緑友 だより

No. 10

全国印刷緑友会機関誌

東京都墨田区本所 4-29-27 (社) 日本印刷技術協会

明治百年 緑友十年

幹事長 白石 豊

緑友会会員諸兄、お元気で昭和43年の新春をお迎えになったことと思います。本年もますますおすこやかに、そしてお仕事のいよいよ充実せられますよう祈念いたします。

緑友会は昭和33年9月の創立ですから、ことして10周年をむかえることとなります。過去をかえりみ、将来をはかるべき年と思います。

10年の主な歩みを記してみますと、

昭和	総会	回	大会	回	セミナー
33年	創立		9月東	京1	
34年	5月箱	根2	10月横	浜2	
35年	7月長	野3	10月神	戸3	
36年	6月名	古屋4	8月仙	台4	
37年	5月群	馬5	10月熊	本5	
38年	5月岐	阜6	9月東	京6	
39年	3月神	戸7	7月長	野7	11月大磯
40年	5月山	形8	9月神	奈川8	11月東京
41年	5月大	阪9	10月名	古屋9	8月箱根
42年	5月福	岡10	10月仙	台10	9月熱海

開催地と年月を見ただけで、その時のようすや、討議の内容を思い出す方もあることでしょう。まして、その地で強く印象に残る・ホストグループ心尽しの民芸や、郷土の味を思い出されたら研修の内容もより鮮明に甦えることでしょう……マルセル・プルーストの長篇「失われた壺を求めて」は、世界の宝といってもよい小説と思いますが、その第一章のおしまいに出てくる有名な一節……菩提樹花の薬湯に浸したマドレーヌ（お菓子）の一片、その味の記憶から叔母の古い灰色の家が芝居の舞台装置のようにあらわれ、そしてあたかも日本人が楽しんでする水中花遊び、水を満した鉢に小さい紙片れを漬けると、そのときまで何かわからなかったその紙切れが、たちまちふくれ、色づき、分れ、まぎれもない花となる。あの水中花のように、物語りの舞台となるコンプレエの街のすべてが、形をととのえて一杯の茶碗のなかからあらわれてくる……そのように、たとえば私のばあいでしたら、長野戸隠の早朝、さわやかな杉木立に立ちこめる神秘的な朝霧を思い出すと、たち

まち、初めて会った緑友会の人々が、その霧の中から姿を現して私の方へ歩みよってくるのですが……大会の年と月と、そして地名を眺めただけでも、まこと絢爛たる異質多彩な才能が、全国に同志の手を結び志を一つにして、よくも10年間、研鑽を重ねたことよと驚かれます。

緑友会にも10年のまとまった記録が欲しいところです。

この10年のあいだ、技術革新の時代を通じて日本はめざましい発展をとげました。奇蹟とよばれる急激な成長をなすとげ、21世紀には世界最高の国民所得をもつに至るであろうと予測されるような国となりました。

印刷産業界においても、この10年は明治百年のうちでも、最も急激な進歩、変貌をみた時期に当たると思われます。

この間に払われた近代化の努力は、誠に並々ならぬものであり、わが緑友会はそのなかにおいて常に前進してきたのでした。思えばそれは、印刷産業の理想像の探究であり、付加価値生産性の向上、社会的地位の向上……であったわけです。ことしは会員諸兄と共に、10年の探究の位置づけを、試みたいと思います。その意味での定着はしばらく措くとしても、ここで書かずにはおれないことは——技術の進歩、経営の近代化はいちぢるしいが、果して印刷人は幸せになったか、ということです。

昨年夏期セミナーでは、企業運営の事例研究、仙台大会では、印刷社会の理想と現実——そのギャップの追求をおこない、分科会では現実の企業内の悩みを持ち寄って討議しました。

中小企業近代化計画の方向についても、昨年緑友会仙台大会において、「協業、団地化の問題点」を摘出してみたわけでした。

われわれは、技術革新と資本の自由化、そのなかで進行する構造改革をみつめ、するどく企業存立の危機感をとらえてきたと思います。

これらの研修における緑友会の仲間の発言に

は、われわれの直面するきびしい現実、中小企業のおかれている環境が、あますところなく語られています。それは、誠に切実な問題で、

1. 労働力の不足
2. 生産性向上をとみなわぬ賃金の高騰
3. 諸経費の増大
4. 料金の頭打ち
5. 利益の低下、赤字転落

など……中小企業共通の問題であり、また

1. 近代計画の歪み
2. 教育および検定制度の發育不全
3. 経営者の問題意識の低調

からくる苦しみであり、これらを追求していくうちに、否応なく日本の政治、そして業界の政治意識と政治力の問題へ転回せざるをえない……そのような省察がなされたのでした。

しかし、私たちは政治について、たとえいま不可能な夢を描いたばあいでも、それを与えられるものとしては考えなかったはずです。それはかちとるべきものである限り、私たちの内面の問題であり、同時に参加、行動を欠いた政治意識は無意味です。

ともあれ、これまでに語られた苦しみにさらに拍車をかけるように、日本経済のことしの雲行きは険しいように見えます。

明治百年、緑友会十年のことしは、同志と共に歴史の重さを考えたい。「過去は現在の瞬間に生き、失われた時は見出されて、時は征服されるのだ」……そのような意味を含め、日本全国の各地で緑友の交流がおこなわれることを期待したい。

そして、人間として、日本人として、印刷人として勇気と誇りをもって未来をひらきたいものです。コンピューター時代の開幕に生きる私たちに、勇気と誇りが最も要請されるといったら、果して時代錯誤でしょうか。



第3回 常任幹事会報告

1月29日京都に於いて第3回の常任幹事会が開催された。ここに御報告する。

日 時 昭和43年1月27日(土)

午後3時—6時30分

場 所 京都市中京区麩屋町 柵屋旅館

出席者 幹事長 白石 豊

監 査 藤田 俊雄(札幌緑友会)

常任幹事 大津 俊雄(仙台刷親会)

／ 小堀 正三
(東京写真製版若葉会)

／ 大川 英郎(神奈川正和会)

／ 高橋 茂(印刷同友会)

／ 岩岡 敏志
(大阪青年印刷人クラブ)

／ 田中 博(名古屋而立会)

／ 武 重治
(神戸印刷若人会)

／ 角丸 時男(/)

／ 大隈 瑞茂
(福岡印刷若葉会)

／ 三淵 満
(久留米プリンティングクラブ)

オブザーバー

土井 庄一郎(印刷同友会)

野田 陽一(仙台刷親会)

欠席者 小林 行昌(東京同友会)

酒本 弘
(熊本プリンティングクラブ)

白石幹事長より仙台大会実行委員長、大津俊雄(仙台刷親会)氏に対し、大会の成功及び仙台大会記録の早期(12月)発行について謝辞を述べた後大津委員長より大会の決算報告があり出席者一同拍手してこれを承認。議事に入る。

審議事項

1. 昭和43年度事業計画について

(1) 第11回定期幹事総会

日 時 昭和43年4月28日(日曜)

場 所 札幌市

ホ ス ト 札幌緑友会

申 込 み 詳細な案内状は各グループ宛2月中に発送、申込みは3月末日まで。

出 席 者 緑友会幹事(各グループ代表)のほか今回は総会オブザーバーとして緑友会々員の出席は何名でも人数の制限はしない。但し議決権はグループ代表者のもつ1票とすることを再確認した。

総会開会 午前10時 閉会 午前11時

懇 談 会 (午前11時—午前3時30分)

仙台大会第2分科会に於て「折角緑友会という全国的な組織があるわけだから、情報交換をも

っと緊密に行なってほしい」との強い要望もあったので幹事総会の機会に次のように懇談会を行なう事になった。

テーマ 「仲間で話し合おう」

1. 賃金合理化
2. コストダウン
3. 適正料金

懇談は出来るだけ具体的な資料を持ち寄り、情報交換の実をあげたいので、総会案内状発送と同時にアンケートを差し上げることとする。

懇親パーティ 航空及び列車時刻表を調査の結果、総会の当日懇親パーティを行なえば、参加者に、札幌宿泊（2泊）負担をかける事になると、当日午前10時の開会に間に合うには当然前夜札幌到着の必要があるので、懇親パーティは前夜行う事にしたい旨藤田監査より要望があったのでこれを了承した。

会費案内状でお知らせする

(2) 夏季セミナー

とき 9月上旬

ところ 東海道新幹線沿線又は関西

テーマ 白石幹事長を中心に在日日本常任幹事に於て協議決定することを委任する。希望としては「世界経済と日本経済」など大きなテーマでポンド危機、ドル防衛下の世界経済の中小企業に与える影響について研修したい。その他印刷産業の問題とともに、日本の歴史、文化

について新たな視野をひろげたい。などの要望があった。

(3) 第11回大会

開催候補地を熊本とし、時期を10月又は11月上旬として、札幌総会に於いて決定する。

(4) 緑友だより

昭和42年度は、幹事長は九州にあり、事務局、岩崎嬢の病気等のため、5月総会以降まだ1回の発行にとままっているので白石幹事長よりこの点についてお詫びするとともに今後は編集印刷は幹事長の手許（熊本）で行う事としたい旨希望があったのでこれを承認した。

2. 財務状況及び会員について

高橋会計幹事より財務状況の報告があり2, 3の未納グループがあるが財務は健全であり次年度に於ける会費改訂の必要度は低いとの説明があった。

3. 緑友会の将来について

この件については常任幹事会終了の後懇談会が開かれ種々討議した。なお席上将来への礎として緑友会十年の歩みを記録するため白石幹事長を編集長とし、歴代幹事長を編集委員として資料蒐集を始める事となった。

以上

追記

昭和42年度常任幹事会は

第1回 東京（6月17日）

第2回 熱海（9月4日）

第3回 京都（1月27日）

と以上3回行なわれました。

グループの動向

☆ 新, 旧交代の秋田

秋田印刷懇話会では、役員のほとんどが、工組の第一線にあるため、昭和年代生れの経営者または、責任者のグループを創立し、昭和会と名付け、全国印刷緑友会常任幹事会の承認により懇話会は脱会し昭和会の加入によって清新さをはかっております。

事務局所在地 秋田市大町3-5-30
秋田県印刷工業組合内
会 長 相 沢 隆 一 氏

☆ 役 員 改 選

長野青年印刷人緑友会
会 長 杉 田 司 氏
新潟印刷新世会
会 長 本 間 吉 平 氏

☆ 東西交流一写真製版

東京の製版若葉会と大阪二世会の恒例の親睦見学会は、ことし、七十余名の従業員をともなって二世会が上京し、12、13の両日を見学、研修に費しグループ員だけに止まらず、その従業員も含めてますます親交を深めております。日程は次の通り。

1月12日(金)午後、
ミカ製版 — 東光写真製版
1月13日(土)午前、
陽 成 社 — 東陽印刷

☆ 緑友を中心とした九州の動き

常任幹事 三 淵 満

九州ブロックの若いグループにとって、緑友会を具体的な形でとらえようとするばあい、いちばん身近かに感じられるのは、西日本青年印刷人大会である。昨年(第9回)は、大分県別府印刷組合青年部の当番により、遠くは神戸印刷若人会からも出席を得て、約90名の参加となった。

緑友の正式メンバーだけではないが、西日本大会の性格は、まったく緑友精神を基調としたものとなっている。

できるだけ多くの発言で「いっしょに考えよう」とする形式をとっていたが、これは福岡印刷若葉会の研修会でもとられている最近の傾向である。その福岡では、創立いろいろのグループ活動の成果を、二周年記念行事であらわした。白石幹事長、武、三淵両常任幹事もさっそくお祝いにかけつけたが、とりわけ九州のほとんどの会合に足をはこぶ白石幹事長の姿は印象的。

身近な問題を、講師と同時性において吸収しようとする新しい方向は、久留米、佐賀、大牟田三地区の合同研修会にも単的にあらわれていた。地元に近い白石幹事長、中村昭治氏、上原晁氏を講師に願い、同じ立場で対話をはかるという方式をとったが、実に緑友スピリットの息吹きを、生の形で表現したものといえるのではないだろうか。

おもな行事

■福岡、佐賀隣県合同研修会

昭和42年6月24日

ホスト 久留米プリンティングクラブ

「団地に立っての感想」

講師 白石幹事長(熊本)

昭和42年 8月26日

ホスト 佐賀若楠会

「印刷料金算定基礎について」

講師 中村 昭治（福岡，栄光印刷）

昭和42年11月18日

ホスト 大牟田交友会

「実践的営業活動の進め方」

講師 上原 晃（佐賀・鹿島印刷）

■第9回 西日本青年印刷人大会

昭和42年 9月9・10日

ホスト 別府印刷組合青年部

■福岡印刷若葉会の主な行事

1. 第10回全国印刷緑友会定期幹事総会
5月14日 国際ホテル
2. 第1回教育セミナー（営業マン）
6月18日 講師 齊藤喜徳先生
松尾真利先生
3. 第2回教育セミナー（現場監督者）
10月29日 講師 水野鉄蔵先生

4. 創立2周年記念講演会

12月17日 講師 田島 司先生

■熊本プリンティングクラブの主な行事

- (1) 西日本印刷人グループ代表懇談会

2月18日19日

於天草パールライン観光ホテル

- (2) 組合主催西日本印刷産業展開催に協力

3月19日～21日 市体育館

- (3) セールスマン教育

6月1日、2日 於福祉会館

講師 竜頭 誠一氏（株，三幸社長）

- (4) 会員および各社営業部員の研修親睦会

7月22日23日 阿蘇赤水（白雲山荘）

- (5) 松橋養護園慰問

年二回（7月12月）各社の整理整頓、清掃を行ない紙屑、廃品を回収してその代金をもって小児マヒ患者収容施設の同養護園を慰問することにきめ、第一回7月27日実施した。第二回は明年1月慰問の予定。

京 都 の 感 想

京都で常任幹事会が開かれたのは、今回が初めてであった。会場の柵屋は、京都でも随一の由緒を誇る宿で、部屋にはそれぞれ香がたきこめられているような、ゆかしい雰囲気、当節めづらしいところである。と云って宿泊料が高いわけではない。

緑友会10年をふりかえり、今年の基本方針を定めるのに、京都をえらんだのは、やはり歴史をふまえた日本のふるさとで、落着いて一晩語り明かしたかったからであった。

常任幹事会の次第は別項の通りであるが、私は今年の方針として、次のように述べた。

——仙台刷親会のお骨折りで、12月（大会終了後2ヶ月という短期間）に、仙台大会の記録が発行されて、会員のお手許に届けられたが、あの記

録、ことに第二分科会を注目したい。あのなか、とりあげて追求すべき問題は集約されていると思う。人手不足、賃金の高騰、コストダウン、料金アップの問題がそれである。会としてとりあぐべき問題が、トツゼン現れるわけではないので、仙台で集約された企業内の悩みを、今年も追求したい。この私の発言は、常任幹事会で容れられたのは嬉しかった。

翌日は日曜で、少し寒いがよく晴れた日で、大阪青年印刷人クラブの中田秀一さんのご案内で余り人の行かぬ古社寺めぐりをした。

常照寺、遣迎院、光悦寺、念仏寺、祇王寺などである。温古知新という言葉があるが、新しい生き方を追求するにも、やはり古い歴史をふりかえる必要があるようで、緑友の仲間とつれだつての京都めぐりはとりわけうれしくおかげでたのしい一日だった。（白石）



下駄の鼻緒

小林 行 昌 (常任幹事)

正月気分も抜けかけた一月のなかばのある日曜日、朝から子供の相手のしつどけでいさゝか疲れたので、床屋へでも行って一休みしようかと下駄をつまかけて外へ出た。冬とはいえ快晴つどき、冷えこみも多少ゆるんで案外に和やかな戸外の空気であった。この頃は道路がまがりなりにも舗装され、かつてのように霜柱が日射しにくづれてのぬかるみなど、めったに見かけることができなくなった。

床屋の親父と世間話をしながらはさみの音を聞いているうちに、眠気をもよおしてうとうとしていたが、最後にはすっかり寝こんでしまったらしい。店を出る時もぼうとした気持は続いていた。

帰り途、冬の日落ちるのが早い。頭の刈りたてもあってか何となく寒く、急ぎ足に歩いていると、突然何かにつまずいて前へのめった。危うくころびそこねて何気なく足元を見ると鼻緒がぶつとりと切れている。家まであと僅かなのにも思いながら、びっこの体よろしくまた歩き出したがふと気がついた。

この下駄をおろしたのは正月になってから。どうしてこんなに簡単に切れるんだらう。

大分前になるが、こんな話をきいたことがある。「下駄の命は鼻緒にある。履きはじめはきついの簡単にゆるんだり、一寸手荒く扱ったから切れるようでは駄目だ。最初から気持ち良く履けて、いつまでもそのあたりの変らないのが一級だ」と。この話によると今履いている下駄は見事落第。一月のうち下駄を履く時間など僅かなものではあるが、いやむしろそれだから

こそ、気持ち良く履きたいもの。

そんなことを考えるのは今の世の中では少しずれているのか。しかし多かれ少かれこのようなことを感じる機会は案外に多いのではないだろうか。勿論どちらが良い悪いは別として、何か肝心のものがどこかへ行ってしまったような淋しい気持を覚えるのは私一人なのだろうか。

社会が合理化すればする程、理屈で割りきれるような方法と結果が追求される。そして合理的であるかどうかと事の正当性を計る尺度になってゆく。

「君の云うことは判る、しかしそれは合理的ではない。だから止めた方が良い」という考え方は「君の云うことはもっともだ、しかし世の中は理屈どおりに行くものじゃないよ」という論旨と同じ論理構造だといったら云いすぎだろうか。

下駄の生産にしても、その工程が機械化され均一化されてゆくことは合理的なことである。それが近代的というものであり、中小企業近代化は機械からという主旨にも沿ってしよう。良質のものを手間をかけて作るより、悪くても安いものを多く作る方が経済的には合理的である。しかしそこに本質的なものとのすりかえが極めて巧みに行われていることは否定できない。このような問題意識は企業経営者としては危険である。しかし私は敢えてこのような問題提起をしてみた。

親しい人への贈り物まで計算機が教えてくれる今日この頃、昔から日本人は性急に結論を出すと言われているが、21世紀の人間社会を卜するものは日本人なのだろうか。

全国印刷緑友会会員名簿

昭 43. 1. 20 現在

No.	会 名	住 所	電 話	代 表 者	人 数
1	札幌緑友会	札幌市北三条西2丁目 ㈱ 藤田印刷所	(22) 4111	藤田 俊雄	14
2	秋田昭和会	秋田市大町3-5-30 秋田県印刷工業組合内	(2) 2961	相沢 隆一	22
3	山形印刷研修会	山形市本町2丁目1-34 菅原印刷所	(2) 6291	菅原 金一	29
4	仙台刷親会	仙台市清水小路 丹野印刷	(21) 2471	大津 俊雄	75
5	茨城緑友会	水戸市北見町9-5	(21) 2205	新山 幸男	27
6	群馬緑友会	前橋市曲輪町81 原田印刷所	(2) 4367	石川 幹二	17
7	印刷同友会	東京都千代田区神田多町2-7	(251) 1667	白橋 達夫	122
8	文京緑友会	東京都文京区大塚4-39-13 文京会館	(946) 4454	徳永 進	78
9	東京活字鳳友会	東京都千代田区神田三崎町2-7 宮崎ビル	(265) 3781	斎藤 実	9
10	東京写真製版若葉会	東京都千代田区神田三崎町2-42 製版会館	(261) 2558	筒井 尚亮	68
11	神奈川正和会	横浜市南区永田町1,178 大川印刷所	(73) 3664	山形 長興	24
12	新潟印刷新世会	新潟市東中通り1番町195 新潟県印刷工業組合	(66) 6695	本間 吉平	27
13	長野青年印刷人 緑友会	長野市南県町637 長野県印刷工業組合	(6) 3279	杉田 司	37
14	名古屋而立会	名古屋市東区高岳町2-2 印刷会館	(962) 7061	佐藤 忠博	48
15	ぎふ翠陽クラブ	岐阜市下岩崎仏供田74-8 大鹿印刷	(65) 5648	大鹿 洪二	46
16	神戸印刷若人会	神戸市生田区下山手通り5-21 兵庫県印刷工業組合	(34) 3857	角丸 時男	26
17	広島緑友会	広島市中町4-14 朝日製版印刷	(41) 3591	尾山 整三	10
18	福岡印刷若葉会	福岡市舞鶴1-2-25 九州印刷文化出版社	(65) 2675	間 茂樹	47
19	北九州Y Pクラブ	北九州市門司区東本町3丁目 門司印刷	(32) 4081	江島 昭二	15
20	久留米プリンティング クラブ	久留米市両替町20 三淵洋文堂	(3) 6182	川原 弘	17
21	熊本プリンティング クラブ	熊本市島崎町宮内290 白石印刷美術 ㈱	(52) 6812	角 明彦	15
22	大阪青年印刷人 クラブ	大阪市住吉区中加賀屋町4-22 岩岡印刷 ㈱	(671) 6331	岩岡 敏志	62
23	大阪二世会	大阪市東成区大今里町2-754 吉谷商会	(981) 6655	中島 敏春	18
24	下関青年印刷人 緑友会	下関市長府町土居の内 昌栄堂印刷社	(45) 0105	中村 勇	13
25	佐世保青年印刷 研究会	佐世保市瀬戸越町260 隆文社	(3) 6306	井上 実	10

編 集 後 記

緑友だよりの編集発行は、事務局編集担当岩崎さんの努力にかかわらず、幹事長が九州にあって意志疎通を欠き、時機を失して発行がタイムリイに行かなかった。お詫びする。

緑友だよりは、緑友会唯一の機関誌であるので、事態を改善するため、今年から幹事長の手許で編集印刷を行うこととなった。

今後は白石より直接原稿のお願いなどもすることにしたいので、なにとぞ、執筆にご協力を…なお、各グループの代表・役員の変更、行事などはその都度おたより下さるようお願いしたい。

編集責任 幹事長 白石 豊
発 行 全国印刷緑友会事務局